



夕方は暗くなるのが早いです。暗くなっても外で遊んでいる子はいないでしょうか。学校も指導していますがおうちでも声がけをよろしくお願いします。自転車乗りも、すでに雪が降りましたので春までお休みとなっています。

第2保健室の設置

コロナ・インフルエンザ、その他の感染症に備えて

新型コロナウイルスだけでなく、これからの季節はインフルエンザの流行も心配されますし、その他の感染症にも備えなければなりません。例えば高熱が出た場合など、他の子どもにうつしてしまうことやコロナも想定して対応しなければなりません。



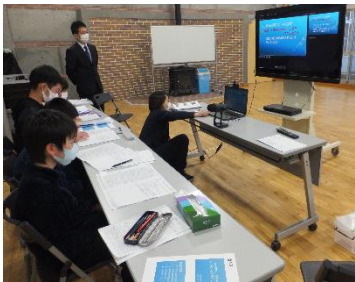
そこで、他の子と同じ部屋で過ごすことがないように保健室とは違う「**第2保健室**」を体育館入口わきの部屋に設置しました。第2保健室への経路もできるだけ他の子と動線が重ならないように考えています。おうちの方に迎えに来ていただく間に使う簡易的なものですが、暖房、ソファなどを用意し、もしも先生方への感染も心配される場合は廊下から見守ることができるように窓がついている部屋にしました。複数の子どもがいた場合は、玄関靴箱前もパーテーションで区切って暖房を置いて対応するようにもしています。

海洋教育サミット

オンラインで300人参加の大会議



11月27日(金)は「海洋教育」のサミットが行われました。「海洋教育」は洋野町が力をいれている学習で文部科学省にも特別に申請して授業に組み入れている学習です。取り組んでいる学校が集まっての発表会(サミット)を行う時期ですが、今年度は“オンライン”で行われました。洋野町、宮城県(気仙沼市)、福島県、山形県の小中高等学校と指導してくださっている東京大学とを結んで総勢300人の大会議でした。大型のモニターに映る相手校に向かって発表する様子はひと昔前



では考えられないことです。パソコンを使って作ったプレゼンテーションの資料で説明し、モニターの向こうから飛んでくる質問にも「質問ありがとうございます。」などと一呼吸おいてから答え、他県の中・高校生とも堂々と渡り合っています。

6年生の代表のグループが、昨年の植林体験なども含め、これまでの総まとめの発表を行ないました。種市小学校では、他の6年生も教室のモニターにサミットの様子を映してみんなで様子を見ました。

歯科検診を待つ1年生

学習発表会後の歯科検診。廊下で待っているのは1年生。黙って待っている子、声に出さないようにと身振り手振りで合図をする子。こうして静かに待つことができるところにも、大きな行事をやり終えての成長が表れているようです。(あっぱれ!)



心の持ち方を教えるとき

洋野町で新型コロナウイルスの感染が確認されたというニュースが流れています。健康や安全に関わることで心配も多いと思いますが、子ども達の落ち着きぶりを見てみると、種市の方々は冷静に受け止めて行動してくださっていると感じています（大人が不安になると子どもにうつるものです）。これまで、子ども達にはいろいろな機会に、不幸にして感染者が出た場合も

- その人を責めるのではない
 - 誹謗・中傷をしてはいけない
 - 「どこの人？」などと詮索することやうわさ話、確かでないことを口にする事さえも、誹謗・中傷につながることもある
- 「人を心配して始めた会話も、しているうちに誰かを避けたりする結果につながってしまった（それは、人を心配していることにならない）」ということが拡大地域では春から言われきました。

などということをお教えしてきました。

先日、町からも、町長さんのメッセージが出され各家庭にも配られていますし、文部科学省からも大臣メッセージが出されています。メッセージには、感染予防の内容とともに感染者への誹謗・中傷にならないようにという内容も入っています。洋野町では、11月に続いて今月に入っても感染者が確認されたというニュースが流れています。残念ですが、今後もこのようなことが起きていく可能性は十分にあります。こういう状況だからこそ、「誰もがかかる可能性があるということ」、「感染した方は、病気で苦しんでいる方であるということ」、「私たちの心の持ちようで感染した方を感染以外のことでさらに苦しめてしまうことになる可能性があるということ」を心に留めて、子ども達に教えていきたいと考えています。

運動会や学習発表会のときに、おうちの方から「よその子への頑張り」に目を向けた励ましをたくさんいただいています。そういう人へのおもいやりやあたたかいまなざしを向ける種市・洋野であり続けるためにも、今、子ども達に、学校でもおうちでも教えていきたいと考えています。

<町民のみなさまへ>

新型コロナウイルス感染症に関するお願い

猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、本町でも感染者が確認されました。町は、関係機関と情報共有しながら正確な情報発信に努めるとともに、今後も感染症対策に取り組んでまいります。

町民の皆さまにおかれましては、必要以上に恐れず落ち着いた行動をお心掛けのととも、手洗いの徹底など日常的な感染予防対策をしていただきますようお願いいたします。

●本町の取り組み・感染状況について

町は11月21日、本町で初の新型コロナウイルス感染症の感染者が確認されたことを受け、同日「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」を開催し、感染状況や今後の対策について協議しました。また、手洗いやマスクの常時着用、手指消毒などの感染症対策を万全に行うなど、落ち着いた行動をお願いするよう防災無線などで町民の皆様にお知らせしているところです。

25日現在、本町では感染者が8人確認されています。これは、高齢者福祉施設関連の集団感染ですが、保健所の調査などで接触者は把握できている状況です。

判断しましたが、利用者や接触状況を既に把握し、封じ込めの作業を積極的に実施していることなどから「それほど大きな広がりにはならないだろう」との見解を示しています。

●いまいちど、対策の徹底を

感染症対策の基本は「手洗い」と「咳エチケット」です。また、集団感染を防ぐためには「3密（密閉・密集・密接）」を避けることが重要です。できるだけ感染のリスクを下げるという考え方で、一つ一つの対策を確実に行うことが必要になってきます。

目に見えないウイルスだからこそ、いまいちど、日常から感染症対策を徹底しましょう。

全国的に新型コロナウイルス感染症の感染が拡大している中、町内においても、感染者が確認されました。

これから流行期を迎えるインフルエンザ感染症予防の取り組みはもちろんのこと、マスクの常時着用や手洗い、人との距離を保つこと、密閉、密集、密接を避けるなど、基本的な感染予防を改めて徹底し、ご家庭や職場、店舗などにおけるこまめな換気も徹底するようにお願いします。

自分の身を守ることに守ること、そしてそのことが家族を守ることにつながり、最終的に全体の感染対策につながります。どうか皆様、感染症対策を万全にして行動していただくようお願いいたします。

私達は誰もが新型コロナウイルスに感染する可能性があり、そのことに対する不安感も多少なりとも皆が抱く感情です。感染者やそのご家族、医療・介護従事者などに対する差別的な言動や誹謗中傷につながらないよう、町民の皆様一人ひとりが冷静な判断と思いやりのある行動をお願いします。

感染拡大を防ぎ、皆さんが安心して生活できるよう取り組んでまいりますので町民皆様のご理解とご協力をお願いします。

洋野町長 水上 信宏

文部科学省

保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多くいらっしゃいます。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要です。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生き抜く児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思っております。

令和二年八月
文部科学大臣 萩生田 光一